

## 「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」声明（2022年3月8日）

**即時、無条件停戦を！これ以上の死傷者を出すな！  
核兵器による威嚇、原発への攻撃は許されない！**



私たちは、36年前のチェルノブイリ原発事故で被災した、ベラルーシ・ウクライナ・ロシア（被災三国）の原発事故被害者と、30余年にわたり交流を続けてきました。ヒロシマ・ナガサキを経験した日本の私たちは、放射能の被害から人々、とりわけ子どもたちの健康と命を守りたいと、被災三国の被害者の方々と「顔の見える」関係を築きながら、ささやかな支援を続けてきました。そして11年前に、日本でフクシマ原発事故が起ってから、チェルノブイリとフクシマを結んだ交流にも取り組んできました。「ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリ・フクシマを繰り返させない！」との思いは、日本の私たちと、被災三国のチェルノブイリ・ヒバクシャの友人たちとの共通の願いです。

被災三国の人々は、ソ連崩壊後の困難な時期にも互いに協力し合いながらチェルノブイリ事故の被害に立ち向かってきました。しかし2月24日、ロシア軍はベラルーシ側からチェルノブイリの「立ち入り禁止ゾーン」を通してウクライナに軍事侵攻しました。チェルノブイリ原発を攻撃・占拠し、チェルノブイリ被災地のジトーミルなどを含むウクライナ各地を攻撃し、子どもを含む市民にも死傷者が出ています。ロシアは「核兵器による威嚇」もしながら、さらに軍事侵攻を続けています。そして稼働中のザポリージャ原発への攻撃・占拠、ハリコフの核関連施設の攻撃をしました。原発への攻撃は、チェルノブイリ・フクシマのような原発重大事故をも引き起こしかねない危険な戦争行為です。いかなる「理由」があろうとも、軍事侵攻、原発への攻撃などは許されません！

被災三国にいる私たちの友人にも、互いの国々に家族や親戚、友人がいます。人々は、誰も互いに戦争をすることなど望んではいません。ベラルーシの友人たちは下記のようなメッセージを送ってくれました。

「おお、兄弟国ウクライナへ、私の国ベラルーシからロシア軍が侵攻したとは、なんと辛いことでしょうか。最も恐ろしい悪夢の中でも、こんなことは想像すらできなかった、決して！私は、ウクライナにいる親戚や友人たちと連絡を取り合い、指導者たちが戦争をやめる良識ある判断をするようにと、ともに祈っています。」「ベラルーシ人は戦争など望んでいません。しかし、それを公言するのは危険です。」「戦争が早く終わることを願っています。しかし、『戦争の汚名』は私たちの国に残り続けるでしょう。」「ベラルーシ、

ウクライナ、ロシア、そして全世界の平和を！澄み渡った青空には、戦闘機は飛ばず、地球上の生きとし生けるものにとって安全でありますように。」

私たちは呼びかけます、

ロシアとウクライナの政府は、無条件、即時停戦を！

ロシアは「核戦力の特別任務体制（戦闘体制）」を解除し、ウクライナへの侵攻をやめよ！

原発や核関連施設への攻撃をやめよ！原発のある地域での戦闘をやめよ！

話し合いに基づく平和的解決を！武力で問題は解決しません！

そして、米、欧州諸国、日本の政府は、ウクライナへの軍事支援をやめるべきです。軍事支援は、戦争を長引かせ、拡大させ、双方にさらに多くの犠牲者を出し、戦場となっているウクライナの国土のさらなる荒廃を招くだけです。そして、何よりも関係国間の話し合いによる平和的解決を目指し、外交的努力をもっと積極的に展開すべきです。

ロシアの「核威嚇」に抗議した日本政府は、今こそ「核兵器による威嚇」をも禁止した「核兵器禁止条約」への署名・批准を行うべきです。そして「非核三原則」を、口先だけでなく明確に遵守するように法制化すべきです。また、核不拡散条約（NPT）第6条でも定められている、核保有国の核軍縮努力を誠実に進めるよう、米露などに強く働きかけるべきです。そのような政策こそが、ヒロシマ・ナガサキを経験した日本の政府が取るべき対応です。

核の軍事利用と非軍事利用（原発核燃料サイクル）は、本質的に切り離せるものではありません。私たちは、いずれの核利用にも反対することを核被害者＝ヒバクシャとともに、ずっと訴えてきました。今回のウクライナでの戦争は、核兵器も原発も、その存在そのものが「人類存亡の危機」にもつながりかねない危険性を孕んでいることを、改めて世界に示しているのではないのでしょうか。私たちは、その「危機」に向かって事態が進むことが決してないように、あらゆる努力を尽くしましょう。

ヒロシマ・ナガサキ、チェルノブイリ・フクシマを、人類はもう繰り返してはなりません。私たちは、ウクライナ・ベラルーシ・ロシアの人々とともに、そして全世界の人々とともに、繰り返し訴えます、

これ以上、人々の命を犠牲にするな！即時、無条件、停戦を！

各国政府は、平和的解決に向けた実のある話し合いが進むよう、全力を尽しなさい！